

研 究 分 野	漁場環境	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研 究 事 業 名	大型クラゲ等有害生物出現調査及び情報提供事業		
予 算 区 分	受託研究((社)漁業情報サービスセンター)		
研 究 実 施 期 間	H19～H23		
担 当 者	今村 豊・大水 理晴・田中 淳也・高坂 祐樹		
協 力 ・ 分 担 関 係	水産振興課・漁業情報サービスセンター		

〈目的〉

大型クラゲの出現・分布状況を試験船による洋上調査及び県内漁協・漁業者からの聞き取り等により迅速に把握し、漁業者等に情報提供し漁業被害の軽減を図る。

〈試験研究方法〉

1 洋上調査

試験船開運丸及び青鵬丸により、日本海及び太平洋で目視調査を実施し、漁業情報サービスセンターへ報告する。

2 出現量調査

県内の漁協から大型クラゲの出現情報を入手し、漁業情報サービスセンターへ報告する。

3 標本船調査

新深浦町漁業協同組合所属の小型定置網漁業船を標本船とし、大型クラゲの入網状況を調査する。

4 水温ブイ調査

深浦町新深浦町漁協沖水深 30m 地点の水深 1m層、10m層、20m層に設置している自動観測ブイにより、水温の連続観測を実施する。収集したデータは、漁業情報サービスセンターほか関係機関へ配信する。

〈結果の概要・要約〉

1 洋上調査 (表1)

試験船開運丸及び青鵬丸により、青森県日本海及び太平洋において、平成21年9月～平成22年1月に目視調査を28回実施した。10月に日本海及び太平洋で大型クラゲを多数確認した。

2 出現量調査

初出現は8月30日に太平洋の泊沖で、平成17年以降、一番早い出現となった。9月中旬には大量に出現し12月中旬まで継続。その後、急速に減少し、1月下旬には、ほとんど見られなくなった。

3 標本船調査 (図1)

出現量調査同様の結果となった。

4 水温ブイ調査 (図2)

1m・10m・20m層共に8月第5半旬に水温のピークがあり、その後、降温が続いた。ピーク時の水温は1m層で24.0℃、10m層で24.0℃、20m層で23.6℃であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 洋上調査結果

月日	試験船名	海域	表面水温(°C)	個体数	傘径(cm)	調査方法
9月1~3日	開運丸	日本海	20.5~24.2	0	—	目視
9月30日~10月1日	青鵬丸	日本海	19.3~22.0	10	100	目視
10月6~7日	青鵬丸	日本海	20.0~21.0	2	100	目視
10月17日	青鵬丸	八戸沖	18.2	1	100~150	目視
10月19日	青鵬丸	八戸沖	17.4~17.6	7	100~150	目視
10月23日	青鵬丸	小川原湖沖	17.1~17.2	120	100~150	目視
10月23日	開運丸	太平洋	14.8	2	100	目視
10月23~25日	開運丸	日本海	15.0~19.2	33	100~150	目視
10月24日	青鵬丸	二枚目沖	16.7~17.1	8	100~150	目視
10月25日	青鵬丸	むつ小川原沖	16.6	4	100~150	目視
10月28~29日	開運丸	太平洋	11.2~18.3	4	100	目視
10月30日	開運丸	太平洋	13.4	4	100	目視
11月25~26日	開運丸	太平洋	9.0~14.2	1	100	目視
11月26~27日	開運丸	日本海	10.7~16.2	8	100	目視
11月29日~12月1日	開運丸	太平洋	9.3~14.7	2	100	目視
1月12日	青鵬丸	日本海	11.5~11.6	0	—	目視

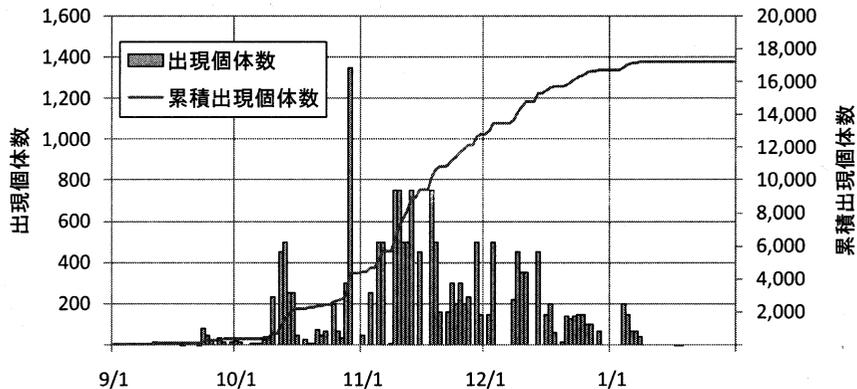


図1 標本船の日別出現個体数及び累積出現個体数の推移

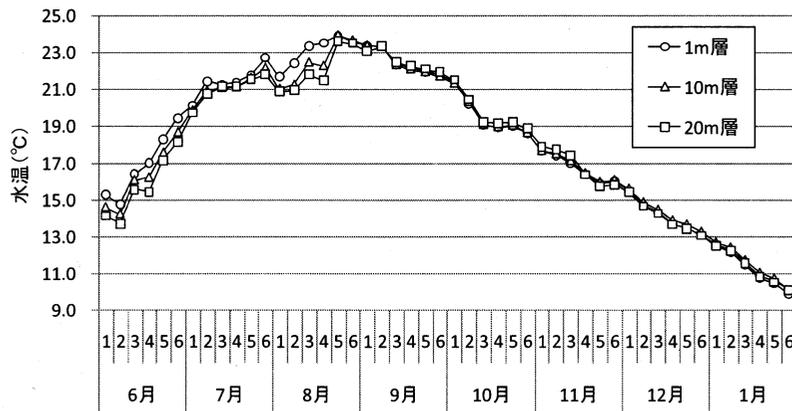


図2 水温ブイによる水深別水温観測結果(半旬)

〈今後の問題点〉

来遊予測手法の確立が必要。

〈次年度の具体的な計画〉

実施要領に基づき、平成21年度と同様の調査を行う。また、得られたデータより来遊予測手法の確立を目指す。

〈結果の発表・活用状況等〉

出現調査結果等はウオダス漁海況速報に掲載した。また、漁業情報サービスセンターへ報告した情報は、東北海域の出現予測情報や水温の短期変動の把握における基礎データとして活用された。